第16回

アンケートからひもとく若手の現状!!

新進会員活動委員会委員　瀬川 千鶴（59期）

新進会員活動委員会では，飛躍的に増加している新規登録弁護士の就業状況や将来の意向に関する実態を知るために，新人弁護士や登録５年目の弁護士を対象とした「弁護士就業問題等に関するアンケート」を実施し，その結果の分析を行っています。

平成19年１月に，54～59期を対象として，第１回アンケートを実施しています。

その後，平成19年秋から，新人会員を対象として，60期から62期までのアンケートを毎年新人研修時に実施しています。新人研修時に配付し，その場で回収するので，アンケートの回収率は８割以上となっています。

アンケートの内容は，就職活動について，年収について，将来の意向等多岐にわたっています。今回は，この中で，就職活動や年収について，現行・新61期の会員に実体験をお話しいただきたいと思います。

就職活動の方法・成績表の開示について

瀬川：まず，「事務所訪問の事務所への連絡方法」，「成績表の開示の有無」についてのアンケート結果をふまえ，お二人に実体験を語ってもらいたいと思います。

訪問希望の事務所への連絡方法については，アンケートの結果，メールでの連絡が現行61期では80.5％，新61期では89.1％，電話での連絡が現行61期では23.0％，新61期が33.6％，手紙での連絡が現行61期では12.4％，新61期では15.8％と，現行・新61期ともにメールが圧倒的多数を占めているようです。やはりお二人もメールなどが多かったのでしょうか？

現行61期：そうですね，はじめの連絡はメールが多かったです。メールでの面接の申込みの際に，添付資料として成績表を要請されたところもありました。

新61期：自分の場合もやはりメールの連絡が多かったです。半分くらいは成績表の提出を求められました。新司法試験の成績表を要請されることが多かったですが，ロースクールの成績表も４分の１くらいは要請されました。

瀬川：アンケートの結果を見ても，新61期で法科大学院の成績表・新司法試験の成績表の開示を求められた方が70.9％います。事務所から依頼されたわけではないが自分から開示したことがある方は26.7％いらっしゃるようです。

また，成績表を提出した後，事務所訪問を断られた事務所があったかとの質問に45.9％が「はい」と答えています。お二人も成績表を提出して事務所訪問までいかなかったケースもありましたか？

新61期：成績で落とされたかはわかりませんが，成績表を出した事務所から事務所訪問を断られたこともありました。

現行61期：私も，メールの段階で落とされたことはあります。それが，年齢が問題なのか成績で落とされたのかはわかりませんが…。

年収について

瀬川：アンケートでは，現行61期，新61期とも600万円から700万円代が一番多かったようですが，お二人はどうですか？

現行61期：私は，入ったときは540万円で，一年後に50万円昇給しました。ただ，２年目以降は昇給はありません。

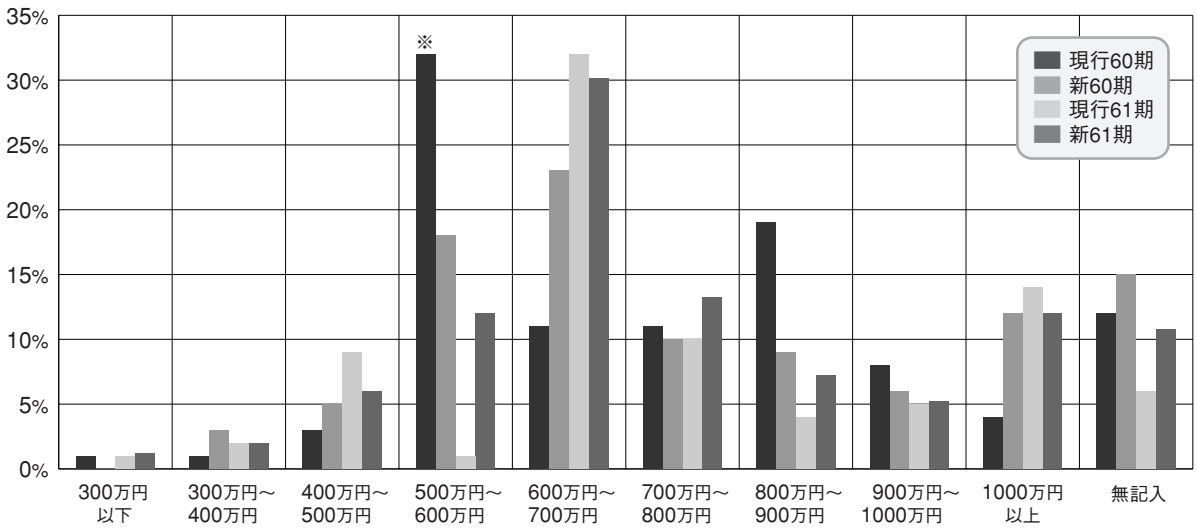
新61期：自分は600万円です。若干の昇給はあります。

瀬川：その他の収入として個人事件が考えられますが，個人事件は自由にできるのですか？

現行61期：自由にできますが，事務所に３割入れる必要があります。

新61期：一応，自由です。

図　60期・61期の年収分布 ～弁護士就業問題等に関するアンケート結果より～



※現行60期について，600～700万円の選択肢が不存在となってしまっていたものの，600～700万円と記入回答した者も複数おり，他の設問の結果などもあわせて推計した。

就職問題について

瀬川：アンケートの結果よりは若干金額が低い感じですが，周りの方も同じような感じですか？

現行61期：金額はそれほど変わらないと思いますが，即独の人も周りにはいます。

瀬川：アンケートの結果でも，0円から300万円という方が，現行61期で1名，新61期で3名います。これは即独も入っているのかもしませんね。給料というよりも就職が大変ということでしょうか？

新61期：そうですね。修習が終わってもまだ就職が決まっていないという人もいました。内定をもらっても事務所の事情で内定が取り消されたというケースも聞いています。

瀬川：アンケートの結果でも，年収の額というより，就職活動が大変だったという結果が出ています。お二人のお話をうかがってもやはり就職活動が大変だったということがわかりました。

本日は，ありがとうございました。

まとめ

このほかにも数多くの質問事項があります。例えば，「弁護士の将来は明るいか，暗いか」「将来専門にしたい分野があるか」「委員会に参加したいか」などの質問事項もあります。現行61期は将来について明るいと考える者は12.4％，暗いと考える者は24.8％，新61期は明るいと考える者は23.3％，暗いと考える者は18.5％と，新61期の方が明るいと考えているようです。暗いの理由として人数増加が圧倒的多数でした。将来について，不安は大きいようですが，その分，専門分野を持ちたいとの希望も多いようです。また，実務に役立てたり，人脈作りのためにとの理由で委員会への参加を，現行61期では7割以上，新61期でも7割近くが希望しています。

アンケートでは，ほかに「東京三会のうち東京弁護士会を選んだ理由」についても質問しています。この質問に対しては，会務が盛んだと聞いたから，会費が安いと聞いたからとの意見もありました。

このようにこのアンケートは若手弁護士に様々な視点から質問をしており若手弁護士の現状がよく反映されています。このアンケート結果を参考にしていただき弁護士会に若手の意見を取り入れてもらえることを期待しています。

新人弁護士のアンケートに関連し，登録5年目の会員を対象としたアンケートも実施しておりますので，こちらについてもご協力いただければと思います。

なお，弁護士会の図書館や会員室などで，60期及び61期のアンケートの結果・分析が閲覧できますのでご興味のある方はご覧下さい。